

平成29年度行政事業レビューシート ( 厚生労働省 )

事業名	難民就職促進費			担当部局庁	職業安定局	作成責任者				
事業開始年度	昭和55年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	外国人雇用対策課	外国人雇用対策課長 赤松 俊彦				
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する計画、 通知等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドシナ難民の定住対策について(昭和55年6月17日閣議了解)</li> <li>・難民対策について(平成14年8月7日閣議了解)</li> <li>・インドシナ難民対策について(平成15年3月14日閣議了解)</li> <li>・第三国定住による難民の受入れに関するパイロットケースの実施について(平成20年12月16日閣議了解)</li> <li>・第三国定住による難民の受入れの実施について(平成26年1月24日閣議了解)</li> </ul>					
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	難民が、言葉や生活習慣が異なる我が国に定住し、安定した生活を営むためには、早期就職により安定した収入を得ることが必要不可欠であることから、定住支援施設等に職業相談員を配置し、職業相談・就職指導、職業紹介等を実施し、難民の自立を促すことにより、難民の我が国における自立・定住を目的とする。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	「条約難民」及び「第三国定住難民」の就労自立による定住促進を図るとともに、既に受け入れている「インドシナ難民」の就労の安定を図るため、定住支援施設等に職業相談員を配置して、職業相談・職業紹介を行うとともに、職場適応訓練等による支援を実施している。									
実施方法	委託・請負									
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	26	26	26	33	38			
		補正予算	-	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-	-				
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-				
		予備費等	-	-	-	-				
	計		26	26	26	33	38			
	執行額		26	26	25					
	執行率 (%)		100%	100%	96%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		100%	100%	96%						
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由						
	政府開発援助難民救援業務委託費	33	38	就労支援が必要な第三国定住難民の増加(14人 → 19人)に伴う増額。						
	計	33	38							
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 29年度	
	就職率50%以上	定住施設に入所した者のうち就職を希望する者の就職率	成果実績	%	94	95	82	-	-	
			目標値	%	50	50	50	-	50	
			達成度	%	188	190	164	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	難民等の定住又は自活促進のための就職援助事業実施結果									
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込
	職業紹介件数	活動実績	件	109	68	49	-			
		当初見込み	件	150	150	150	200			

単位当たりコスト		算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
		単位当たりコスト = X/Y (就職者1人当たりの経費) X: 年度執行額(千円) Y: 年度就職者数(人)						単位当たりコスト	円	801,818
		計算式		X/Y	26,460/33	26,365/23	24,533/22	33,038/23		
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	労働者の特性に応じた雇用の安定・促進を図ること(IV-3)								
	施策	高齢者・障害者・若年者等の雇用の安定・促進を図ること(IV-3-1)								
	測定指標	定量的指標			単位	26年度	27年度	28年度	中間目標	目標年度
				実績値	-	-	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	「条約難民」及び「第三国定住難民」の就労自立による定着を図るとともに、既に受け入れている「インドシナ難民」の就労の安定を図るため、定住支援施設等に職業相談員を配置して、職業相談・職業紹介を行うとともに、職場適応訓練等による支援を実施している。本事業を実施することにより、高齢者等の就業率等の向上に寄与する。									
	改革項目	分野:	-							
	KPI (第一階層)	KPI (第一階層)			単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度
				成果実績	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-		
KPI (第一階層)	KPI (第一階層)			単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
事業所管部局による点検・改善										
国費投入の必要性	項目			評価	評価に関する説明					
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。			○	難民が言葉や生活習慣が異なる我が国に定住し、安定した生活を営むためには、早期就職により安定した収入を得ることが必要不可欠であるため、難民に対する職業相談・職業紹介等を実施することは適切である。					
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	難民に対してきめ細やかな支援を実施することが可能なノウハウ等を有している民間団体を選定し、委託している。					
事業の効率性	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。			○	難民の自立・定住という明確な政策目標の達成手段として位置づけられており、閣議了解に基づき行われる優先度の高い事業である。					
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			△						
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。			無	公募により委託先を選定しており、支出先の選定は妥当である。					
	競争性のない随意契約となったものはないか。			有						
	受益者との負担関係は妥当であるか。			-						
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。			○	定住施設に入所した者のうち就職を希望する者について、日本での居住経験がほとんどなく、一人当たりの支援経費が高額な第三国定住難民が占める割合が増えているため、単位当たりコストは増加しているが、事業目的に即し真に必要なものに限定しており、妥当であると考えている。					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			-						
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○	委託費の精算に当たっては、使途が事業目的に沿った支出となっているか、真に必要なものに限定されているかを精査している。					
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-							
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-							
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。			○	限られた予算の中で、一人でも多くの難民を支援するため、スタッフの人数を最小限に抑えるなどして工夫している。						

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	定住施設に入所した者のうち就職を希望する者に対し、適切に相談を実施し、目標以上の就職率を上げている。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	事業実施に当たって、関係省庁が実施する各種支援事業と密接に連携し実施するなど他の手段・方法等よりも、効果的に実施できている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		△	定住施設に入所した者のうち就職を希望する者が想定より少なかったため目標には達していないが、適切に相談を実施し就職を実現している。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		○	外務省の難民等救済業務委託事業では、生活に困窮する難民認定申請者に対する保護措置や、条約難民等の日本定住等の促進を行っており、本事業では職業相談・職業紹介等の就労支援を行っている。	
	所管府省名	事業番号	事業名		
	外務省	-	難民等救済業務委託事業		
点検・改善結果	点検結果	支援対象者数は当初の見込みを下回ったが、職場適応訓練等の受講あっせん、給付金の支給を適切に行っており、高い就職率を実現している。また、執行率も96%となっている。			
	改善の方向性	適切に予算を執行し、事業の目標が達成できており、このまま継続して事業を実施する。			
<b>外部有識者の所見</b>					
点検対象外					
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>					
一部の改善	事業内容	活動実績が低調に推移している要因を分析し、事業の適正な執行を図ること。			
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>					
執行等改善		活動実績(職業紹介件数)は、当初見込みより低調となったが、高い就職率は維持できており、マッチングの効率は上がっている。これらを踏まえ、概算要求に反映した。			
<b>備考</b>					
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>					
平成22年度	562	平成23年度	511	平成24年度	453
平成25年度	520	平成26年度	522	平成27年度	531
平成28年度	529				

